

咽頭結膜熱について

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課

1 流行状況

- 令和5年第51週（12月18日～12月24日）の定点当たり報告数は全県で3.73となり、前週の3.42に比べ増加しました。国が示す警報基準（定点当たり3）を超えていることから警報を発令しています。終息基準（定点当たり1）を下回るまで、警報を継続します。

2 咽頭結膜熱とは

- 咽頭結膜熱は、アデノウイルスの感染により、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎といった症状を来す、小児に多い病気です。
- 高熱が比較的長く（5日前後）続くことがあります。特別な治療法はありませんが、ほとんど自然に治ります。吐き気、頭痛の強いとき、せきが激しいときは早めに医療機関に相談してください。
- 通常は6月頃から徐々に流行しはじめ、7～8月にピークとなります。冬場でも感染が流行することもあります。

3 予防方法

- 主な感染経路は、飛沫感染あるいは接触感染です。プールでの接触やタオルの共有により感染することもあるため、プール熱と呼ばれることもありますが、近年ではタオルの共用が減った等の理由からプールにおける集団感染の報告はみられなくなっています。
- アルコール消毒が効きにくいいため、石けんと流水による手洗い、うがい、咳エチケットといった基本的な感染対策が大切です。
- 感染者との密接な接触は避け、タオル等は別に使用してください。
- 症状が消退後1か月程度は、感染者の便の中にはウイルスが含まれます。トイレの後やおむつ交換の後、食事の前には手洗いを心がけましょう。
- 症状があるときは外出を控え、無理に登園や登校はしないようにしましょう。

4 学校保健安全法における扱い

- 第二種感染症として定められており、主要症状が消退した後2日を経過するまでが出席停止となります。ただし、病状により、学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められた時は、この限りではありません。

5 参考

- 厚生労働省「咽頭結膜熱について」
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou17/01.html>
- 国立感染症研究所「咽頭結膜熱とは」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/adenopfc.html>
- こども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）（2023（令和5）年5月一部改訂）」
https://www.zenshihoren.or.jp/uploads/topics_download/20230509093415.pdf
- 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会「学校、幼稚園、認定こども園、保育所において予防すべき感染症の解説（2023年5月改訂版）」
https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/yobo_kansensho_20230531.pdf